

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

理数 高校

理系だけでなく文理をこえたテーマで、全校で探究を

10秒でいうと 理数探究基礎・理数探究は現行どおり。文理横断（STEAM）の課題も充実し、全校で指導

高校の共通教科「理数」（理数探究基礎・理数探究。審議まとめでは「理数科」と表記）は、科目の枠組みと学習内容を大きく変えない方向です。今の内容は、探究に最低限必要なものと考えられているためです。そのうえで、探究のテーマを科学・数学に偏らせず、文理をこえた課題も充実することが望ましいとされています。数学・理科の先生だけでなく、全校で指導する体制が望ましいとされています。

1 文理をこえたテーマも

社会の事象や学際的なテーマも本来想定されていますが、現場では選ばれにくいとされています。そこで、探究の対象の例を科学・数学に偏らせず、文理横断・文理融合（STEAM）の課題も充実する方向です。数学的な事象の例の追加も検討するとしています。P195 P196 P197

授業では 地域の交通渋滞を、データ分析と住民へのインタビューの両方から探究する。そんなテーマ設定が、この方向に沿う一例です。

2 目標と見方・考え方の言葉

目標の「課題を解決するために必要な資質・能力」は、「数理的・科学的に探究する資質・能力」に改める案です。対象は「様々な事象」から「事象や社会の課題」に改めることが望ましいとされています。見方・考え方には、批判的思考（クリティカル・シンキング）の重要性をふまえた記載を入れる方向です。P197

授業では 探究の中間発表で、互いの仮説や根拠に「本当にそう言えるか」と質問し合う時間を設ける。そんな場面づくりが考えられます。

3 全校で指導する体制へ

指導を担当する先生を、数学・理科以外にも広げるべきとの指摘があります。そこで、全校で指導する体制を作ることが望ましいとされています。全ての教員が自主的・協働的に関われる仕掛けづくりが重要で、国による好事例の周知が必要とされています。P195 P196 P198

授業では 社会科や国語科の先生が、テーマに応じて探究グループの相談役を担当する。そんな校内の役割分担が一例として考えられます。

4 時間の確保と、問い・評価への支援

探究には十分な時間が必要です。理数探究で総合的な探究の時間に代えられる今の仕組みがあります。次期改訂の案として、単位数を細かく分けて増やしたり減らしたりできる仕組みも示されています。これらの活用が有効とされています。問いの立て方や評価は、国が先行事例や参考資料で示していくべきとされています。P196 P198

授業では 探究の過程をポートフォリオに残し、問いの変化や試行錯誤も評価の材料にする。そんな評価の工夫が考えられます。

ほかにも変わること（高校）

- 探究テーマを科学・数学に偏らせず、文理横断（STEAM）の課題も P195 P196 P197
- 数学・理科の先生だけでなく、全校で指導する体制へ P195 P196 P197 P198
- 目標の言葉が変わる：「数理的・科学的に探究する資質・能力」 P197
- 見方・考え方に「批判的」な考察を加え、「数理的・科学的」な視点に P197
- 探究の時間を確保する仕組みの活用 P196 P198
- 問いの立て方・評価・ICT活用・外部連携への国の支援 P196 P198
- 内容は大きく削らない（「科学ガイダンス」との接続に注意） P195 P196 P197

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。